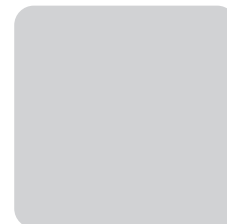
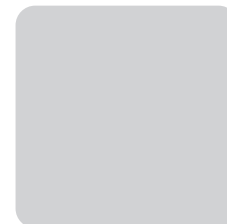
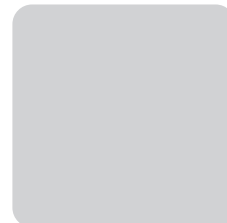
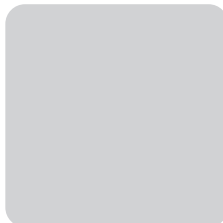
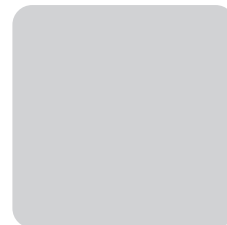
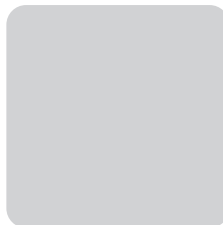


Explore the Engineering Edge



IHI Report

第194期

平成22年4月1日～平成23年3月31日

IHI

証券コード：7013

株式会社 IHI



先進のものづくり技術とエンジニアリング力に加え、
新たな市場、新たな事業をグローバルに創造し、
世界のすべてのマーケットに
確固たる地位を築くことをめざします。

代表取締役社長兼最高経営執行責任者

釜 和明

Q 平成23年3月期決算では、連結経常利益と連結当期純利益が過去最高益となるなど、当初の予想を大きく上回るものとなりました。この要因についてお聞かせください。

A 当初の予想を上回る業績となったのは、全体的な工事採算の改善や回転・産業機械事業における売上高増加が主な要因です。工事採算の改善については、資源・エネルギー事業を中心に大型案件に対する受注前審査および進行中のプロジェクトの管理など、内部管理体制が定着したことにより工事の改善効果が現れたことによるものです。また、売上高増加は、自動車市場の世界的な需要回復により、車両用過給機の売上高が当初の想定以上に拡大したことによるものです。

他のセグメントでも採算改善や経費削減の効果が現れ、その結果、前期に続きすべてのセグメントで営業黒字を達成し、連結経常利益は514億円となりました。平成22年度を足がかりに、引き続き「グループ経営方針2010」で掲げました連結経常利益600億円の達成に向けグループ一丸となって取り組んでまいります。

Q 平成22年度は「グループ経営方針2010」の初年度にあたりますが、この1年を振り返っての評価はいかがでしたか？

A 「グループ経営方針2010」で掲げました三つのパラダイムシフトについては、着実にグループ内に浸透し、成果が現れつつある一方で、今後の課題も浮き彫りとなりました。

「ライフサイクル重視のビジネスモデル」については、アフターマーケットへの取り組みが収益に結実しつつある一方で、ライフサイクル全般を通じたお客さまとの関係強化につながる仕組みづくりなどにはまだ課題があります。

「市場ニーズを重視した製品戦略」については、新たに「総合営業部」を設け、事業部門横断での提案活動に取り組んでおりますが、さらに、成長市場のお客さまのニーズに適した製品・サービスをご提供することが課題となっております。

「グローバルな事業運営」については、車両用過給機や汎用圧縮機などにおいてグローバル展開の成果が着実に現れてきていると認識しております。また、グローバルな事業運営を加速するため、ブラジル現地法人や中国総支配人制度をスタートさせました。今後はこれらの海外地域拠点を中心に、具体的な地域戦略を策定していくことが課題です。

Q 「グループ経営方針2010」では新事業の展開についても触れられています。現在の取り組みにはどのようなものがあるのでしょうか？

A ひとつは米国A123システムズ社と協働して進めているリチウムイオン電池の供給事業です。同社のリチウムイオン電池は高い安全性と長いサイクル寿命が特徴です。低炭素社会を実現する技術を提供するためにも、幅広い産業分野に、標準化を進めたリチウムイオン電池の供給を進めてまいります。

また、新型インフルエンザに対し高まるワクチンの供給ニーズに対応するため、UMNファーマ社(秋田県)と共同で、平成22年5月にインフルエンザワクチン原薬の製造会社を設立しました。現在原薬プラントが完成し、試運転を実施している段階ですが、UMNファーマ社が保有しているワクチン生産に関する知見・経験と、当社のエンジニアリング技術を併せ、効率的な製造設備の運営をめざしております。

Q 平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、日本経済は深刻なダメージを被ることとなりました。IHIグループにおける被害および復旧状況ならびに、今後の事業への具体的な影響についてはどのようにお考えですか？

A あらためて、このたびの震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに対しまして心よりお見舞いを申し上げます。当社グループにおきましても複数の工場や関係会社が被害に遭いましたが、幸いにも従業員の人的被害はありませんでした。多数の株主様から温かい励ましのお言葉をいただいたことに対しまして、この場を借りてお礼を申し上げます。

航空エンジンの主力工場である相馬工場は建屋、設備などに大きな被害を受けましたが、従業員ならびに協力会社、建設・設備会社の方々が一丸となって復旧に取り組んだ結果、現在では本来の生産能力水準にまで回復しております。原子力事業については、福島第一原子力発電所問題の推移



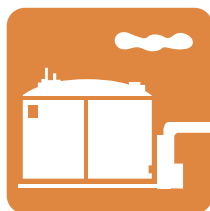
および今後の評価や国内外のエネルギー政策の動向を踏まえ、戦略の見直しが必要になるとは考えておりますが、蒸気発生器関連を中心とする加圧水型原子炉(PWR)関連の研究開発投資は継続してまいります。

当社グループは、平成23年度を「震災からの復旧・復興に傾注しつつ成長軌道を確立する年」と位置づけました。すでにエネルギー関連設備の整備、橋梁・水門などの被災調査、緊急補修などをはじめとして、お客さまの復旧・復興に向けて当社一丸となって尽力しております。

今後も、被災地の復興には、私たちのエネルギーやインフラ関連の技術力が求められると考えており、当社グループの総合力を発揮して復興プランを積極的に提案・発信して、真正面から取り組んでまいります。

Q 最後に社長ご自身の抱負をお聞かせください。

A 平成22年度は「グループ経営方針2010」の初年度として、順調なスタートをきることができたと考えております。しかし、まだまだ株主の皆さまにご満足いただけるレベルには至っておりません。平成23年度は、成長軌道を確実なものにするため、変革に向けた具体的な取り組みをIHIグループが一丸となって展開し、企業価値の向上に取り組んでまいり所存です。今後とも株主の皆さまからの一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。

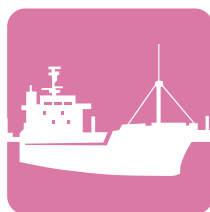


資源・ エネルギー 事業

前期 当期
売上高 3,827億円 → 3,064億円
営業利益 271億円 → 224億円

ボイラ, プラント関連が減収

- ・受注高 海外向けボイラの増加により、
前期比421億円増の3,328億円
- ・売上高 ボイラ, プラント関連の減少により、
前期比763億円減の3,064億円
- ・営業利益 減収の影響などにより、
前期比47億円減の224億円



船舶・ 海洋事業

前期 当期
売上高 2,139億円 → 1,899億円
営業利益 13億円 → 109億円

新造船で採算性向上, 修理船は増収増益

- ・受注高 艦艇および巡視船の受注獲得により、
前期比958億円増の1,608億円
- ・売上高 新造船が減少となり、前期比240億円減の1,899億円
- ・営業利益 新造船の採算性向上, 修理船の増収に伴う増益により、
前期比96億円増の109億円



物流・ 社会基盤 事業

前期 当期
売上高 2,068億円 → 2,125億円
営業利益 94億円 → 118億円

橋梁, 水門事業で統合効果を発揮

- ・受注高 物流システムが堅調であったため、
前期比149億円増の2,021億円
- ・売上高 橋梁, 水門事業の統合効果により順調に増加し、
前期比57億円増の2,125億円
- ・営業利益 売上高増加に加え、鋼製橋梁の採算性向上などが寄与し、
前期比24億円増の118億円



回転・ 産業機械 事業

	前期		当期
売上高	1,680億円	→	1,921億円
営業利益	43億円	→	124億円

車両用過給機が好転

- ・受注高 自動車市場の回復基調により車両用過給機が大幅に増加し、前期比502億円増の1,879億円
- ・売上高 車両用過給機の増収の影響で、前期比241億円増の1,921億円
- ・営業利益 車両用過給機の売上高増加が寄与して、前期比80億円増の124億円



航空・ 宇宙事業

	前期		当期
売上高	2,901億円	→	2,737億円
営業利益	89億円	→	58億円

民間向け航空エンジンで為替円高の影響

- ・受注高 防衛省向け航空エンジンが堅調に推移し、前期比177億円増の3,110億円
- ・売上高 民間向け航空エンジンにおける為替円高の影響により、前期比163億円減の2,737億円
- ・営業利益 為替円高の影響により、前期比31億円減の58億円



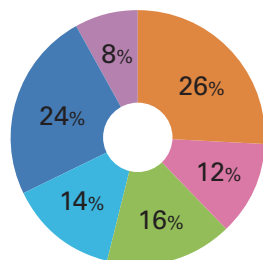
その他 事業

	前期		当期
売上高	1,225億円	→	1,143億円
営業利益	14億円	→	21億円

農業機械の採算性改善

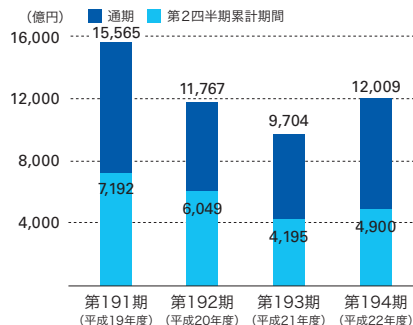
- ・受注高 建設機械、農業機械が増加したことにより、前期比198億円増の1,095億円
- ・売上高 建設機械、農業機械以外の機種が振るわず、前期比81億円減の1,143億円
- ・営業利益 農業機械の採算性改善により、前期比7億円増の21億円

受注高(連結)

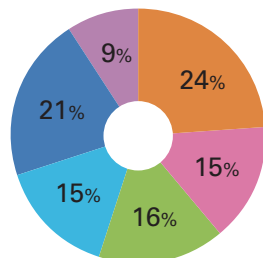


(単位:億円)

資源・エネルギー事業	3,328
船舶・海洋事業	1,608
物流・社会基盤事業	2,021
回転・産業機械事業	1,879
航空・宇宙事業	3,110
その他事業	1,095
調整額	△1,034

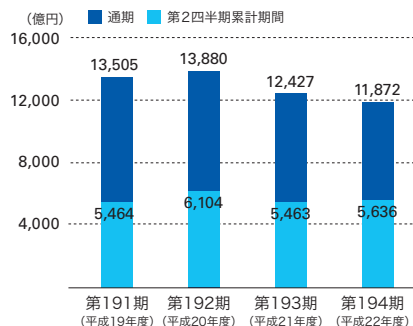


売上高(連結)

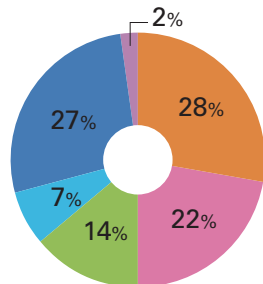


(単位:億円)

資源・エネルギー事業	3,064
船舶・海洋事業	1,899
物流・社会基盤事業	2,125
回転・産業機械事業	1,921
航空・宇宙事業	2,737
その他事業	1,143
調整額	△1,019

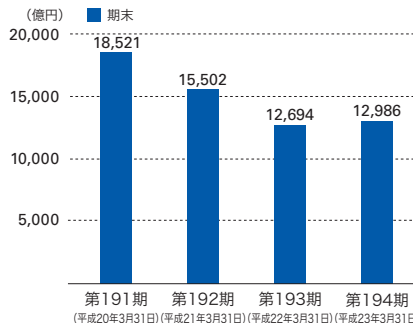


受注残高(連結)



(単位:億円)

資源・エネルギー事業	3,635
船舶・海洋事業	2,875
物流・社会基盤事業	1,783
回転・産業機械事業	893
航空・宇宙事業	3,543
その他事業	255



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	平成23年3月31日	平成22年3月31日
流動資産	853,405	941,742
現金及び預金	116,422	76,641
受取手形及び売掛金	291,033	320,227
棚卸資産	363,099	404,455
その他	82,851	140,419
固定資産	508,036	470,679
有形固定資産	328,739	290,909
無形固定資産	21,056	23,116
投資その他の資産	158,241	156,654
資産合計	1,361,441	1,412,421

科目	当期末	前期末
	平成23年3月31日	平成22年3月31日
流動負債	691,131	758,164
支払手形及び買掛金	269,445	241,185
短期借入金及び社債	144,885	194,027
前受金	123,603	171,071
その他	153,198	151,881
固定負債	416,670	427,192
長期借入金及び社債	215,716	224,190
その他	200,954	203,002
負債合計	1,107,801	1,185,356
株主資本	234,684	204,618
資本金	95,762	95,762
資本剰余金	43,037	43,028
利益剰余金	95,973	65,933
自己株式	△ 88	△ 105
その他の包括利益累計額	3,402	7,542
新株予約権	388	302
少数株主持分	15,166	14,603
純資産合計	253,640	227,065
負債・純資産合計	1,361,441	1,412,421

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日～平成23年3月31日	平成21年4月1日～平成22年3月31日
売上高	1,187,292	1,242,700
売上原価	976,846	1,048,875
売上総利益	210,446	193,825
販売費及び一般管理費	149,056	146,680
営業利益	61,390	47,145
営業外収益	12,447	15,519
営業外費用	22,355	29,637
経常利益	51,482	33,027
特別利益	20,740	1,868
特別損失	24,759	12,079
税金等調整前当期純利益	47,463	22,816
法人税等	16,872	5,290
少数株主利益	827	148
当期純利益	29,764	17,378

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日～平成23年3月31日	平成21年4月1日～平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	95,565	76,708
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 77,798	△ 62,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,907	△ 1,800
現金及び現金同等物の期末残高	115,025	124,870



資源・
エネルギー
事業

豪州鉱山会社向け大型ガスタービン発電設備を納入

当社は、豪州現地法人IHI ENGINEERING AUSTRALIA PTY. LTD. と共同で、平成22年8月、豪州リオティントグループ向け大型ガスタービン発電設備（発電出力4万キロワット）4基を納入しました。このガスタービン発電設備は高効率であり、老朽化した既設のガス火力発電設備から置き換えることで、CO₂削減を実現することができます。

当社は、リオティントグループに対し、同設備を既に3基納入しており、今回納入分を含め、今後整備事業を行なってまいります。



豪州リオティントグループ向け
大型ガスタービン発電設備



船舶・
海洋事業

護衛艦「いせ」の引渡し

株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド (IHIMU) は、平成23年3月、防衛省向け平成18年度計画ヘリコプター搭載護衛艦 (DDH) 「いせ」を、IHIMU横浜工場において引き渡しました。本艦は、現在就役中の護衛艦「ひゅうが」と並び、日本の護衛艦としては最大の基準排水量 (13,500トン) を誇ります。また、ヘリコプター4機分の発着艦スポットを擁しており、災害などで早急な対応が求められる際にも柔軟な対応が可能です。



防衛省向け護衛艦「いせ」



物流・
社会基盤
事業

新型地下式パーキングを 開発, 販売開始

IHI運搬機械株式会社(IUK)は、スペースを最大限に有効活用できる新型水平循環方式駐車装置「IHIスーパースクエアパーキング」を開発し、平成23年2月、販売を開始しました。この駐車装置は、主に地下スペースにおける収容台数を最大限に確保することを目的としています。建築物の柱などを避けて駐車スペースを設けるなど、躯体に合わせた最大収容効率のレイアウトを可能にし、同社従来機種比で最大25%の収容効率アップを実現しました。また、同時に入出庫にかかる待ち時間を従来機種比で約25%短縮することにも成功しました。



機械動作イメージ



「IHIスーパースクエアパーキング」イメージ図

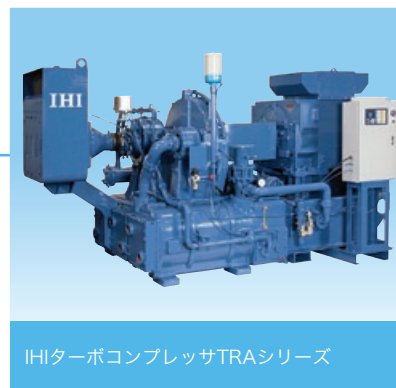


回転・
産業機械
事業

汎用コンプレッサ事業で 世界最大手アトラスコプコ社と 販売提携契約を締結

当社は、スウェーデンのアトラスコプコ・グループ(アトラスコプコ社)と汎用圧縮機の販売提携契約を締結しました。国内市場では、アトラスコプコ社が得意とする給油式汎用スクリュウ圧縮機の完成品を当社の全国ネットワークを活用して販売し、グローバル市場では、当社の業界最高水準の高効率汎用ターボ圧縮機のコアユニットをアトラスコプコ社へ供給し、アトラスコプコ社が完成品に仕上げたうえで、欧州・アフリカ・中東などへ販売します。

当社は、この販売提携により、平成25年には同コアユニットの製造台数を倍増させる計画です。



IHIターボコンプレッサTRAシリーズ

航空・
宇宙事業ロッキード・マーチン社から
衛星用エンジンを受注

株式会社IHIエアロスペース(IA)は、平成22年11月、米国ロッキード・マーチン社から通信衛星「Vinasat-2」に搭載される衛星用エンジンを含め4台のエンジンを受注しました。「Vinasat-2」は、ベトナムにおける2基目の衛星として平成24年に打上げが予定されています。今回受注した衛星用エンジンは、IAが独自開発したもので、推力、燃費とも世界最高性能のエンジンです。なお、この受注により、IAの海外向け衛星用エンジンの受注台数が累計100台に達しました。



衛星用エンジン

その他
事業

新型林業機械を開発、販売開始

IHI建機株式会社(IK)は、日本で初となる国産の林業機械(フォワーダ)「F801」を開発し、平成22年8月、販売を開始しました。この機械は、「日本の山林に適した走行性能」、「抜群の使い易さ(生産性の向上)」、「安全性確保と耐久性」、「快適、簡単メンテナンス」の四つのコンセプトにより開発されました。その主な特徴は、(1)軟弱地盤における走行性能、(2)回転式の運転席による作業効率、(3)転倒時保護構造を採用した安全性、(4)フルオープンカバーによる始業点検やメンテナンスの容易さなどです。

IKは今後も国内森林整備ニーズの高まりに適應した先進林業機械を提供していきます。



林業機械「F801」

東日本大震災における影響と当社の取り組み

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに対し心よりお見舞い申し上げます。

当社グループにおきましても、東北および北関東に所在する複数の事業拠点が被災いたしました。株主の皆さまには多大なるご心配をおかけいたしました。

航空エンジン部品の製造拠点である相馬第一工場および相馬第二工場(福島県相馬市)は、震災直後より電気や通信などのライフラインが途絶するとともに、工場建屋や設備に被害が生じ、一時的に操業を中断せざるを得ない状況となりましたものの、従業員や協力会社の方々が一丸となって復旧に取り組んだ結果、3月29日には一部工程にて操業を再開し、5月上旬にはすべての製造工程で全面的に復旧することができました。

また、東北支社、株式会社IHJ機械システム本宮工場などの拠点におきましても、震災により一時的に営業を中断しておりましたが、現在は平時の体制を整えて営業を再開しております。



復旧にあたりましては、株主様をはじめ多くの関係者の方々から励ましのお言葉、ご支援を賜りました。この場を借りてお礼を申し上げます。

当社グループといたしましては、電力需給の逼迫に対応するための発電設備の整備や、橋梁・水門などの被災調査、緊急補修など、社会のニーズをいち早くキャッチし、これまで以上に積極的に取り組んでまいります。

当社グループは、今後とも、「技術をもって社会の発展に貢献する」の経営理念のもとに、環境、エネルギー、産業・社会基盤の一翼を担う企業グループとして、地球と人類に豊かさや安全・安心を提供することを掲げていることから、グループの総力をあげて被災地の復旧・復興に取り組んでまいります。

※当社グループは、被災者の方々の救援や被災地の復興に役立てていただくための義援金の拠出などを行っております。

クローズアップ

IHI

日本初の歩道橋 ～西枇杷島歩道橋(愛知県清須市)～

平成22年4月、愛知県と岐阜県を結ぶ県道に架かる『西枇杷島歩道橋』が、設備の老朽化と県道の拡幅工事に伴い撤去されました。この歩道橋は、昭和34年に当社(旧名古屋造船株式会社)が製作したものです。

当時は「歩道橋」という呼び名がなく、「学童専用陸橋」と呼ばれ、子どもたちの通学路として長年にわたり活躍してきました。

この歩道橋が設置された50年前は、日本の交通量が急激に増加していました。この県道も横断歩道が少なく、子どもたちは車を避けながら、走って道を渡っていましたが、そんなある日、10歳の女の子がトラックにはねられ大けがをしました。この



渡り納めの様子



全景

事故を機に歩道橋が建設され、その後全国に広がることとなりました。

歩道橋の撤去にあたり、今は親の世代となった元児童らが「みんなで歩道橋にお礼を言いたい!」と立ち上がり、市や学校とともに別れ式を開き、歩道橋との別れを惜しまました。

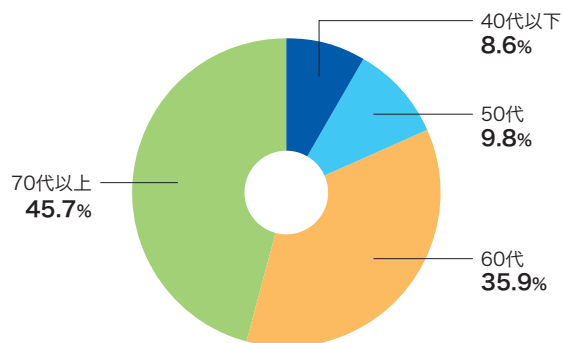
設置から約50年、子どもたちの安全を守り、たくさんの人から愛されてきた歩道橋、それは当社が製作した日本で最初の歩道橋でした。

株主アンケート結果のご報告

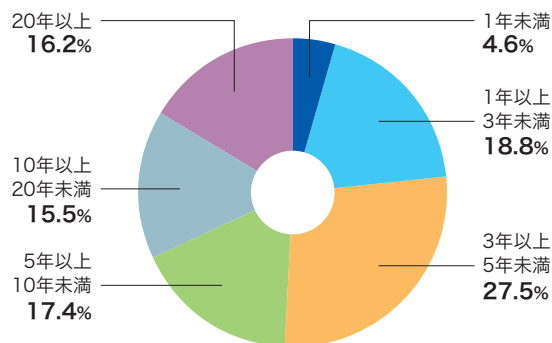
昨年12月、「第194期 中間 IHI Report」に同封したアンケートにつきましては、12,323名の株主の皆さまからご回答(回答率10.2%)をいただきました。誠にありがとうございました。

つきましては、主な集計結果を以下のとおりご報告申し上げます。皆さまからいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の経営に反映させてまいります。

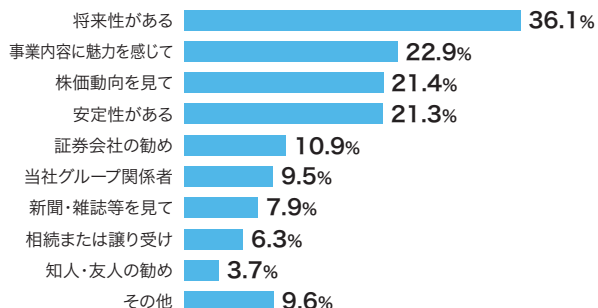
●ご回答者の年齢構成



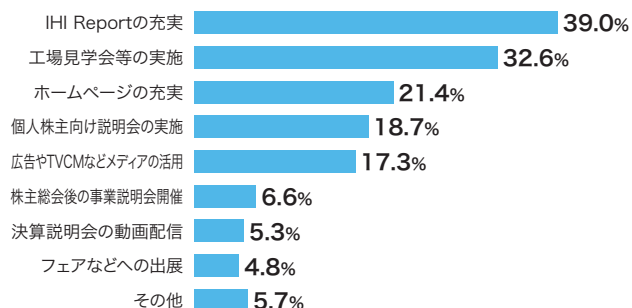
●ご回答者の株式の保有期間



●株式の購入・保有理由(複数回答)



●株主様とのコミュニケーションにおいて期待する取り組み(複数回答)



当社は、アンケートの結果、自由記述欄にご記載いただいたご意見・ご要望を踏まえ、IHI Reportやホームページにおける経営方針・戦略、事業に関する情報の充実など、株主の皆さまとのより緊密なコミュニケーションを図ってまいります。

会社の概要 (平成23年3月31日現在)

商号 株式会社IHI
 IHI Corporation
 設立年月日 明治22年1月17日
 本社所在地 〒135-8710 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
 資本金 95,762,421,600円
 株主数 112,228名
 ホームページアドレス <http://www.ihico.jp>



豊洲IHIビル

役員 (平成23年6月24日現在)

●取締役

代表取締役社長 釜 和明

代表取締役副社長 昼間 祐治
 橋本伊智郎
 斎藤 保
 中村 房芳

取締役 芹澤 誠
 塚原 一男
 出川 定男
 坂本 譲二
 寺井 一郎
 瓦谷 立身
 井元 泉
 石戸 利典

社外取締役 浜口 友一
 岡村 正

●監査役

常勤監査役 清水 照雄
 丸山 正和

社外監査役 井口 武雄
 郷原 信郎
 能仲 久嗣

●執行役員

最高経営執行責任者 釜 和明

副社長執行役員 昼間 祐治
 中村 房芳

常務執行役員 浅岡 光勝
 瓦谷 立身
 石戸 利典
 岩本 宏
 井元 泉
 出川 定男

執行役員 吉田 詠一
 高田 成人
 井上 明
 我孫子 治
 村井 一郎
 吉田 豊
 寺井 一郎
 朝倉 啓
 青木 伸男
 満岡 次郎
 浜村 宏光
 大谷 宏之
 望月 幹夫
 松井 一良

会計監査人

新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

株式事項 (平成23年3月31日現在)

●株式の総数

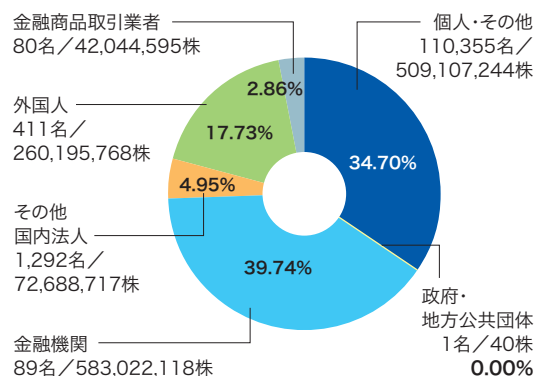
発行可能株式総数	3,300,000,000株
単元株式数	1,000株
発行済株式の総数	1,467,058,482株
うち単元株式数	1,464,034,000株

●大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	60,537,000	4.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	55,422,000	3.77
第一生命保険株式会社	54,060,700	3.68
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	43,680,050	2.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	39,844,000	2.71
IHI共栄会	25,804,000	1.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	24,524,000	1.67
日本生命保険相互会社	23,867,886	1.62
三井住友海上火災保険株式会社	22,268,000	1.51
住友生命保険相互会社	21,624,000	1.47

●株主構成

■所有者別株式分布状況



(注)IHI Reportの作成にあたり、金額および株数・持株比率は単位未満を切捨て表示しました。ただし、連結財務諸表の金額は四捨五入表示しました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店 ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国 各支店で行なっております。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

・「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただけます。ただし、株式数比例配分方式を選択されている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行なわれます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認ください。

*確定申告をされる株主様は、大切に保管してください。

CSR報告書について

当社は、社会的課題や社会的要請に対する当社グループの取り組み内容をまとめた「IHI CSR Report 2011」を平成23年6月24日に発行いたしました。CSR報告書の電子ファイルは、当社ホームページからダウンロードできます。

<http://www.ihi.co.jp/csr/index.html>



IHI CSR Report 2011

Explore the Engineering Edge

IHI

株式事務のお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)

